

議事録:江橋、高橋、木戸:13:00 開始 17:00 閉会  
順番を変えて討議したので、実際の討議番号を議題の前に表示、

## 平成 29 年度第 3 回 IODP 部会執行部会議事録

日時:2017 年 11 月 24 日(金)13:30~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室 A

出席者:

執行部:益田晴恵(部会長・大阪市立大学) 木下正高(部会長補佐・東京大学地震研究所)  
狩野彰宏(東京大学) 黒柳あずみ(東北大学) 齋藤めぐみ(国立科学博物館) 林 為人(京都大学)  
道林克禎(静岡大学) 村山雅史(高知大学) 森下知晃(金沢大学)(Zoom)  
山田泰広(掘削航海専門部会長・JAMSTEC)

リエゾン:小村健太郎(陸上掘削部会長・防災科学技術研究所)

オブザーバー:渡辺達也(MEXT) 小林翔太(MEXT) 木村 学(J-DESC 会長・東京大学)

沖野郷子(科学推進専門部会長・東京大学 AORI) 稲垣史生(EFB・JAMSTEC) 山中寿朗(東京海洋大学) 池原研(産業技術総合研究所) 齋藤実篤(科学技術専門部会長・JAMSTEC)(Zoom)

倉本真一(JAMSTEC CDEX) 肥田慎司(JAMSTEC)

事務局(JAMSTEC CDEX):江口暢久 江橋由美 神戸優子 高橋可江 木戸ゆかり

欠席者: 黒田潤一郎(東京大学 AORI) 針金由美子(産業技術総合研究所)

議事録(案)

<審議・意見照会>

1. 活動スケジュールの確認・次回日程決定..... 資料 1

江口:資料説明

2. 4 J-DESC 組織見直しの現状

江口:午前中の J-DESC 組織見直し TF 会議の説明(TF 会議議事1を参照)

木下:理事会まで通すのは、時定数が長くなり、決定事項までに時間がかかるのではないかと。綺麗な形は時として動かないが。

江口:チェーンが若干長くなる可能性はあるが、その方がきれい。

益田:こうしたことを考え出した当初のきっかけは、執行部会が何もかも背負っていて仕事量が多すぎる。JDESC がどういう組織でなければならぬか、掘削科学がどういう方向に向かっていかなければならぬか、の根本的なところが進んでいかず、踏み込んだ議論ができなかった。執行部会が実行的な組織として動いていく為に、切り離す。理事会は、実務は背負わなくて良いから、根本的なところを考え、組織全体のために働いてもらう、執行部会は実務に専念することで、今まで背負いきれなかった部分を手放す、というのが大枠の方針。実際にはもう少し詰める必要があり、役割分担を明確にすれば、タイムラインも長くならないようにしていけると思う。

木下:例えば予算の話では、予算案は部会が作るのではなく、理事会から総会に出していく。会員は理事会に物を言いやすい。

江口:会員も理事になる可能性がある。理事は公募で決めるのはどうか。

村山:研究に対するとりまとめは会長、部会長がやるのか?理事会を作るならば、風通しを良くしてもらいたい。

益田:科学的な方向性については、企画に入っていると考える。もう少し議論を続けて決める。

3. 2 会員現状報告及び変更承認..... 資料 2,

高橋:資料説明、

Consensus\_171124-01:東京海洋大学海洋資源環境学部入会を承認。

Consensus\_171124-02:京都大学(正会員 B)の対象を京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源システム分野から京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源学講座へ広げ、会員名称の変更を承認

#### 4. 執行部メンバーの追加について

Consensus\_171124-03:東京海洋大学入会に伴って山中さんをオブザーバーから執行部会のメンバーに追加すること、また、専門部会長の斉藤さん、沖野さんを執行部メンバーとして追加することを承認。

#### 5. 3 J-DESC2017 年度予算状況.....資料 2, 4

高橋:会費滞納についての説明がなされた。会費滞納のまま退職された方の分の取り扱いについては、前年度、前々年度の分を一旦請求して、団体、個人で入るか選択してもらおう。

Action Item\_171124-01: (東工大がメンバーから抜けるのはコミュニティーにとってのロスとなるので)、会長、部会長 2 名の連名でレターを出し、メンバーを継続することを依頼する。益田部会長がたたき台を作り、確認修正後、事務局より送る。その反応により滞納金免除かどうか決める(益田部会長、小村部会長、木村会長、事務局)。

高橋:資料4、例年通り予算執行していった場合、年度末残額 25 万円程度の見込みであり、このままでは WS の旅費が捻出できない。今年度分の JDESC 予算の支出をセーブして、WS 用経費、特に若手支援に充てたい。また、WS の規模や目的等によりかかる経費も変わってくるが、現在は JDESC マターになっている WS に JAMSTEC を共催に入れることも考えられる。例えば、学生一人あたり 1 万円といった支援など、旅費サポートを行う希望が J-DESC にあるなら、会計担当者と連携し、出来得る限りの予算措置を取りたい。

小村:今年度限りの処置ということで、良いか。

高橋:今年度限りである。なお、SCORE の経費については、JDESC で了解いただいているのだが、IODP 関連活動については、ものにより JAMSTEC 経費で出すことも可能である。

江口:3 月の WS がなければ、例年通りだった。CLSI@Sea の乗船旅費は IODP 関連活動であるので、JAMSTEC 経費から出して、JDESC 側をセーブしたい。

Consensus\_171124-04: CLSI@Sea の乗船旅費は、JAMSTEC 経費からの支出とする。また、今後、WS の実施に向けて可能な限り予算の使用をセーブしていく。

#### 6. 5 J-DESC 倫理指針の検討

木村:Ethics 問題について資料説明、データ捏造、ハラスメント、GEOETHICS 論文、データ、フィジカルサンプル、など、倫理指針について世界では議論されてきている。JDESC 特有の問題(放射線検層、コア等)がある、JDESC の中でも引き続き議論していった方がよい。組織を変えるときに、規定も見直しをするのはどうか?さらにデータやサンプルのオリジナルを辿れるようコミュニティが管理すること、データの質が問われている。アーカイブへのケアなしは、たいへん危険である。

斎藤:科学館博物館として、データアーカイブ問題は、テーマとして重い。

益田:規約改定の際に入れていくことから始める。本件は認可いただいたこととする。

Consensus\_171124-05: J-DESC 倫理指針の重要性・必要性を認識し、今後継続審議を行う。

Action Item\_171124-02: J-DESC 規約改定の際に、倫理指針を含むようにする(執行部会、J-DESC 組織見直し TF)。

#### 7. 6 ワークショップ(2018 年 3 月)開催概要

江口:3/29-30 横浜の三好講堂で開催。Zoom 会議にて、どのような WS にするのか議論が続いている。重要な点は、今までを振り返り、この先コミュニティをどうすれば良いか、どういうサイエンスをしていくか、の議論が育っていく場にしたい。基本は前回の沖野案に基づく。コンセンサスが得られていないので、今後メールにて回させてほしい。コアメンバーは、益田、小村、沖野、道林、諸野、巽さんら、(長谷川さん、黒田さん乗船中)。科学掘削の未来を議論する。

益田:アナウンス等、今後のタイムラインはどのくらいを予定しているか?

江口:前回の Zoom 会議で開催承認をされたが、陸上部会での承認がまだである、12/7 の開催後、すぐに趣旨等、学生補助の内容も詰めて、1st circular をアナウンスしたい。クリスマス前に取りまとめたい。

道林:あらたな若手の育成として素晴らしい。JpGU は何かと会合がバッティングするので、3 月に毎年1回くらい開催となると、IODP に興味ある人に後ろに座って様子見できる格好の場所提供になるのでは。新たな人材確保につながる。若手ニューイヤースクールは 15 年ほど続いている。

益田:毎年開催については、予算の捻出が難しい。今年は、JAMSTEC が持ってくれたが。

木下:1 月 WS にも関係するが、WS がメインであれば、世話人を置き、仕掛けが必要では？ある程度、10 年くらいの方向性が共有されることになるので、仕掛けが重要である。

稲垣:10 年ではないが、ここをきっかけにする、ということ。

江口:ここで Post 2023 を議論するのではない。

稲垣:そもそもサイエンスとして何を知りたいのか、「ちきゅう」というオンリー1のファシリティを使ったインフラドリブンで何ができるか、ではなく、我々は地球惑星系で何を知らなかったのだろうか？という原点に戻る。その上で、幾つかの問いがあり、掘削のアプローチがどう有効に使えるのか？を問いたい。

江口:掘削科学ではなく、科学掘削へ。掘ることによって何ができるのか、サイエンスがあつてのこと。

稲垣:Zoom 会議で議論を進めたい。

黒柳:以前にも提案したが、経験者の話、プロポーザル育成過程、実際の乗船経験談も入れてほしい。具体的なイメージしやすい話題があると、一気に身近になる。

木下:2 日間なので、いろいろもりこむのは大変で、全部はできない。

江口:黒柳さんの提案のような話題を入れようとしていて、現在プログラム作成中。

山田:JDESC の WS ということ？日本とその地域性を取り挙げる？(前者である、この中で地域性の議論もある地域のサイエンスをどうするか、という議論も行う。日本周辺だけでなく。

江口:今回はそのような性格ではない。そういったことをやるためには、資金繰りを含めて、もっと他のアクターと組むことを先に行わねばならない。

益田:内容については継続審議する。

Action Item\_171124-03: 2018 年 3 月開催のワークショップの内容について、継続的に審議する(執行部会)。

#### 8. 7 大型研究マスタープラン検討ブレインストーミング集会

木下:場所と時間の確認、資料説明、これに向けて準備をしたい。一つのポイントは、NANKAI 掘削は、2020 年には終わっている。

木村:学術会議は 2020 年に次の大きな転機を迎え、2020 年終わりに次の大型研究がスタートする。どう進めるか、来年 JpGU ユニオンセッションで夢ロードマップを示したい。何か MEXT からの情報はありますか？

渡辺:海洋地球課的にはその情報は入っていない。学術会議の方でこういう動きがあるというのは、情報として入れて頂けるとありがたい。

益田:木下さんは既に打ち合わせをはじめているようだが、地震、高圧科学との連携を強める方向で、掘削科学側からの提案をしたいということ？

小村:世話人として産総研の藤原さんを推薦したい。本人も了解している。2017年の課題一覧には、ムーオン、火山があつたが、どうか？

木下:議論としては、陸上も含めたグローバルなサイエンスもしくは海洋科学。

木村:ボトムアップサイエンスとどう切り分けるか？クライテリアをきちんととしないとだめ。

益田:掘削科学からの提案、学術会議より JpGU で採点した方が高得点であつた。そういう点からいうと学術会議を理解している人だけじゃなく、幅広く知ってもらおうという点ではよかつた。

#### 9. Journal Oceanography 50 周年特集号 ..... 資料 5

稲垣:資料説明

倉本:Munk 先生等これまでのヒストリーを記録しておくことが良い。半世紀やってきたなりの Evidence を残すことも必要。サイエンスだけではなく、Munk 先生のような生き字引の経験値とか入れていきたい。これだけではなく、ビデオや書物、デジタルデータ、映像編集など色々な形で考えていくのが良い。その一つになるのか？日本のコミュニティとして、何がメリットになるのか？

稲垣:エディターになっているので、日本のコミュニティがやってきたことをいかに反映させるか、役目を果たしたい。「ちきゅう」の過去 10 年の貢献、ODP 時代の日本の貢献などを紹介することができる。本文と別に 12 個のコ

ラムのようなもの(スポットライト)があるので、そこで取り上げる交渉も可能。来年の12月出版を目指している。しかし、資金繰りのところが足りていない。

沖野:日本としても貢献したほうが良い。Oceanography を講義等で良く使っている。少し経つとダウンロードもできるし、写真もきれい。使う気になると非常に使い勝手の良いもの。スポットライトで「ちきゅう」や日本の動きが見えるようにしておくところに良い。

稲垣:過去の歴史を振り返るだけではなくて、2023以降の科学掘削を議論するためのスタートポイントとしても位置付けたいと A. Koppers は言っている。

黒柳:来年100万円くらいだったら、予算的にも出せなくはない。

倉本:JRFB 議長 A. Koppers の気持ちはわかるが、US のためのドキュメントに日本がお金を出すということは心してかからないといけない。将来の約束ができていないわけではない。

益田:US メインになったらいけないのか?

倉本:US のために日本がお金を出すという形になってはいけない。

稲垣:国際色を考えたエディター選出になっている。インプリをここで議論するわけではない。50年を振り返ることがメインで、次への重要なマイルストーンになる、という意識でいるだけ。

倉本:この前のフォーラムでは中国は将来の話をしたがっていた、そのあたりの話が出てくるのではないのか。

稲垣・江口:Contents ができたら Basecamp で回し、日本の意見を取りまとめる。

益田:継続議論。発行することは前向きに、予算はもう少し固まってきたら、来年の予算組みに入れるということも考えられる。

Action Item\_171124-04: Oceanography 特集号への対応は、Table of contents ができた時点で、予算を含めて検討する(執行部会)。

#### 10. 8 JpGU 固体地球科学セクションにおけるフォーカスグループの設立..... 資料6

道林:資料6説明

フォーカスグループにすると、セクションボードが設置されている、JpGU のサーバーを使ったメーリングリストを作ることができ、予算の支援(国際会議で1名分くらいの旅費)が受けられる。予算申請締め切りは今月末である。

道林:予算・人・人選・固体地球セクションボードの中で、フォーカスグループとして、マンツールのキーワードが入ってくるとありがたい。フォーカスグループは時限付き、2年間である。現在の静岡大学のマンツール掘削 ML とかウェブをゆくゆくは JpGU 内に組み込んでいきたい。来年10月にハワイで WS を行う(受付は12/1から)。JR が太平洋に戻ってくるタイミングで組み込まれると良い。

#### 11. 10 海外機関所属者の乗船応募に関する運用方針(案) ..... 資料7

江口:資料説明

山田:例3の評価を経験したことがある。

益田:シンプルに考えるために1は良いと思う、受け入れ時点で日本にいない人はダメだと思う。見込みで応募するのはありだが、乗船するときに資格を満たしているかをチェックする。3は許可すべきケースではないと思う。日本の税金を使って乗船する分だけだから、何か深い関係が日本にないとダメ。

渡辺:身分を与える日本の「所属機関」は論文掲載時に記載されねばならないと思われる。そうなると、日本海呼称・単独表記問題などにグリップを利かせられるようにしておかねばならないケースがあると思われるので、ご留意願いたい。

山田:論文等出すときは日本の affiliation へ。

益田:確実に日本の機関に所属していないとダメだと思う。

江口:それでいくと2はまるまるダメになる。

山田:ルールがないまま、前例があると云われ却下できなかった。

稲垣:グレーな点があるので、減点要素をつけるのは違和感がある。応募条件にクライテリアが確実にないとダメなのは。応募条件は、確実に定められていることが必要である。

黒柳:2はなしではなく、確実に日本の機関に所属していれば良いということか。

益田:本当のところはその時点で、実際に日本で働いていないとダメ。

応募時には他国でも、乗船時には日本に滞在し、機関に所属していることを求める。

林:2はパスポートだけ、論文書くときは日本の所属がないと書けない、ので問題があると思う。

江口:応募時はともかく、乗船時には滞在を伴う所属があること。

益田:2はこれまでの案でたたき台を事務局で作る。

**Action Item\_171124-05:** 海外機関所属者の乗船応募に関する運用方針は本執行部会での議論を元に、事務局案を改定する(事務局)。

12. 11 出張報告書のガイドラインと活方法(案) ..... 資料 8

江口:資料説明

益田:忙しかったら書かないので、概要と詳細を枠で作っておく、公開用の概要部分と詳細、任意は消して詳細の枠を作る

江口:そういうインプリで良いか?

報告書ガイドラインについては、ほぼ原案で OK。パネル、WS の報告書については、任意ではなく、必ず概要 + 詳細のセットで提出させるという様式にする。

**Consensus\_171124-06:** 出張報告書のガイドラインと活用方法について、原則事務局案を承認する。パネル会議および WS の報告書はウェブ掲載用の概要と執行部での情報共有のための詳細記載を行うものとする。

13. 12 掘削情報(データ)の取り扱い

益田:オペレーションの時のデータを公開してほしいという要望があった。

江口:すべて公開している、データ QC をしていないので、その点を理解いただいた上で、提供している。

木下:趣旨は知っている人はいる。科学コミュニティにもっと認識を広げるべきではないか。

倉本:もともと IODP スタンダードではなく、「ちきゅう」独自である。もし、どこかが QC をやってくれば、それはウェルカム。

山田:掘削データをどうすれば使えるようになるのか、を作っているところ。JDESC から、CDEX とサイエンスコミュニティ双方に向けてリコメンデーションを出してもらえば。

益田:どういう風にアナウンスをすれば良いかというだけ。提案者の木下さんと江口さんで話合ってもらい、提案してもらおう。ウェブに出すとか、生データであれば、出せる、というように。

斎藤:執行部で **Recommendation** を作っていただいてよろしいかと思いますが、かなり細かい議論もあるので、科学計測専門部会を活用いただき、専門部会と CDEX で話し合う、というオプションもあります。

益田・木下:是非それで!

**Consensus\_171124-07:** 掘削情報データの公開について、科学計測専門部会での議論を要望する。

13 その他

江口:近日中に科学計測専門部会を行う。「ちきゅう」ラボの改善要望のとりまとめ、オマーンのフィードバックなど、2・26-27が TAT なので、その2週間くらい前に行いたい。日程調整を。

**Action Item\_171124-06:** 科学計測専門部会開催の日程調整を行う(事務局)。

道林:JpGU の大会運営側からのお願い。今年からポスターセッションの会場が全スペースになった。企業ブースを 50%増しにしたいので、賛助会員にも出してもらえると掘削が盛り上がりよ。責任者になっている。前向きな企業があれば、紹介してほしい。

報告事項は時間がないので見ておく旨、益田部会長より指示

<報告>

14. SCORE プログラムの現状報告 ..... 資料 9, 10

15. IODP の動向

・掘削航海動向報告 ..... 資料 11, 12

・国際動向報告(ECORD Council) ..... 資料 13

陸上掘削部会の動向

小村:ICDP のスクールが 10 月にあり、一名参加した。次回報告する。オマーンの件、マントルに達した、という時点でプレス発表する。

16. その他

小村:陸上掘削部会員の辞職の承認

江口:SCORE について、制度の見直しあり。次のプロポーザル締め切りは、5 月 1 日。稲垣さん、プロポーザルの指定フォーマットは 1600 字以内であるが、稲垣プロポは3000を越している。+10%までとしたい。

高橋:SCORE のウェブ公開については、費用負担のことは載せる予定である。

村山:大体いくら掛かるのか、何名乗船するといくらになる、消耗品などの情報が掲載されるとわかりやすい。

益田:沖野さんの執行部員承認への件、欠席裁判だったが、IODP 執行部会の正式委員に沖野さんを招聘することになった。沖野さん、快く了解された。

次回の執行部会:1 月 19 日、場所は東京大学地震研究所なので、お間違いのないように。

配布資料

- 資料 1 J-DESC 長期主要スケジュール
- 資料 2 会員リストと会費納付状況
- 資料 3 会員名称変更に関するお願い
- 資料 4 J-DESC 2017 年度予算状況
- 資料 5 50 YRS of Scientific Ocean Drilling
- 資料 6 JpGU 固体地球科学セクションにおける  
フォーカスグループの設立
- 資料 7 海外機関所属者に関する運用方針(案)
- 資料 8 出張報告書のガイドライン(案)
- 資料 9 SCORE proposal list
- 資料 10 SCORE 制度見直し
- 資料 11 掘削航海スケジュール
- 資料 12 乗船決定・応募者リスト
- 資料 13 IODP Forum 報告書
- 資料 14 国際委員ローテーション
- 参考 前回執行部会(170922)議事録(確定)